
五分間の気持ち 駅

村間 涙

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

五分間の気持ち 駅

【Nコード】

N6438Z

【作者名】

村間 涙

【あらすじ】

日常の中の、すばらしき五分間。

彼女が駅のホームに現れるのは七時四十分発の電車が来る五分前だ。この二年間、彼女は決まってその時間に駅のホームにやってきた。この辺りでは有名な進学校の制服に身を包み、適度な長さの黒髪を背に流し、赤いフレームの眼鏡をしている彼女。

俺は彼女とはまったく無関係な、彼女よりもランクが一つも二つも下の高校に通う平々凡々な男子学生。

この駅を利用するという以外はまったく共通点も関係もない間柄だ。しかも俺と彼女ではホームの反対側。

線路を挟んだ反対側のホームに彼女を見つけたのは高校一年の初夏のことだ。

今と変わらない赤いフレームの眼鏡をしていて、今と変わらない場所に立って、五分前から電車を待っていた。目を惹かれたのはなぜなのだろう、それはわからない。しかし彼女は、人混みの中では世の中 of のさまざまなものに埋もれてしまいそうな彼女は、そのホームでは確かな存在感があった。

それからの俺は毎朝彼女を見ることが日課になっていた。ストーカー？ いや、男子高校生が女の子を見るのは当然のことだと思う。といても彼女は俺に気付いていないし、これからも気付くことはないだろう。

別に気付いてもらいたいわけじゃない。

ただ俺の生活の中に彼女という存在は確かにあるのに、彼女の生活の中に俺なんていう存在はまったく関わっていないわけ。その世の無情というか、なんというか、とりあえずそんな気持ちが切ないだけなのだ。

今日も俺は彼女を見つけて、この二年間まったく変わらずにそこにいるその安心にこっそり満足した。本当は前記した気持ちなどどうでもよくて、ただ俺は彼女に恋しているだけなのかもしれない。なんて自嘲気味に思いながら三八分着の俺が乗るべき電車に乗り込む。実質彼女と同じ駅にいる時間は三分ちよっとだけなのだ。

電車に乗って、ふと彼女のほうを見る。

「あ」

目が合った。

彼女が電車の窓越しに、まっすぐに俺を見ていたのだ。

視線が絡まった途端目を逸らされてしまったが、確かに目が合った。俺は信じられないような、思い込みのような、天に登るような、気恥ずかしいような、複雑な、しかし確かな嬉しさを込めて彼女に微笑んだ。

世の中、無情なことばかりでもないようだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6438z/>

五分間の気持ち 駅

2011年12月21日18時46分発行